

平成26年度「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」  
公開セミナー 傍聴報告

日 時：平成26年12月16日（火）13：00～17：00

会 場：文部科学省東館3階講堂

内 容：以下参照

**日 程**

※受託団体1団体につき2名まで出席可能。

- 13：00～13：10 開会挨拶  
文部科学省スポーツ・青少年局 スポーツ振興課長 森岡裕策
- 13：10～14：20 テーマ別事例発表
- ①トップアスリートによる巡回指導  
NPO 法人 Yu-Gaku 加茂スポーツクラブ（島根県）
  - ②地域の課題解決に向けた取組  
NPO 法人さばえスポーツクラブ（福井県）
  - ③小学校体育活動支援  
NPO 法人よりづかちよいスポ倶楽部（北海道）
  - ④「拠点クラブ」を核としたエリアネットワーク構築  
NPO 法人 SCC（鹿児島県）
- 14：35～17：20 グループディスカッション、発表 ※傍聴者は見学のみのみ。  
～17：30 閉会

**【開会挨拶】**

- ・平成27年度内にスポーツ庁が発足となるが、その重点施策に「スポーツを通じた地域社会の再生」を位置づける。
  - ・「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が、本年6月に公布された。平成27年4月1日から施行され、教育委員会制度の改革が行われる。
- 教育委員長と教育長の一本化、全ての地方公共団体に「総合教育会議（首長が招集）」を設置することなどが記載される。当事業は、地方公共団体の理解も必要不可欠であるため、頭の隅に置いておいてほしい。
- ・当事業は、1クラブにつき3年間継続して受託可能だが、その後も何らかの形で事業を継続しているクラブは、現在87.8%。
  - ・人材・資金・施設不足が原因で、活動が持続できないクラブを支援するため、本年度より「拠点クラブ」を核としたエリアネットワーク構築に関する実践研究（新規）を開始した。
- 自律的な運営の促進をはじめ、クラブネットワーク強化により、単独クラブでは困難な企業やトップチームとの連携促進を図る。

## 【事例発表】

### ①NPO 法人 Yu-Gaku 加茂スポーツクラブ（島根県）／2年目

- ・プロジェクトリーダーは、東京都から「地域おこし協力隊」として島根県に I ターンした女性である。
  - ・島根県雲南市は、テニス・錦織圭選手の父親の出身地。クラブの拠点である加茂 B&G 海洋センターのテニスコートは、錦織選手もかつて使用しており、本年は多くのメディアが取材に訪れた。
  - ・地元の実業団チーム「島根三洋電機ソフトボール部」が、平成25年3月に無期限休部となり、残された選手が地域密着型クラブチーム「TEAM DAN-DAN」を構成した。
- 活動経費の捻出や地域貢献活動の継続など、様々な課題を抱えていることを知り、クラブが当事業を受けることを決意。
- ・元日本代表でもあった「TEAM DAN-DAN」の選手が、島根三洋電気を退職。現在は、加茂 B&G 海洋センターの嘱託職員として働いており、クラブの活動に貢献してくれている。
  - ・「TEAM DAN-DAN」以外にも、bj リーグの「島根スサノオマジック」や天皇杯出場経験のある「松江シティ FC」等、多数のプロスポーツ団体の協力を得た。
- プロスポーツ団体の観戦者数、ファンクラブ入会数の増加などの結果も出ている。

### ②NPO 法人さばえスポーツクラブ（福井県）／2年目

- ・授業後～学校開放事業の放課後のすきま時間を活用して、トップアスリートと子ども達がふれあう機会を提供した。
- 市内5小学校で5種目を実施。学校側には、希望回数と希望種目を自由に選んでもらった。
- ・放課後の時間を利用しての事業なので、子ども達はいつもと異なる時間に下校することになる。リスクマネジメントは徹底しなければいけない。
  - ・ハンドボールのトップアスリートによる指導で、体力テスト「ボール投げ」の記録が伸びたという結果も出た。
- ハンドボールの会場が県北部にしかなく、クラブによる教室化が困難なのが課題。
- ・中学校でのダンス必修化に伴い、学校教員や保護者を対象にした「模擬授業体験」を実施。約80名の参加があり、盛況であった。
  - ・PTA 経験者や学校評議委員がクラブスタッフのため、市内のどの小学校に行っても知人がおり、小学校との連携は非常にスムーズだった。
- 学校は時間の変更が多いため、日頃からスムーズに連絡が取れないと対応が難しい。連絡手段は、電話ではなくメールを主で活用している。
- ・市内地域スポーツ団体の問い合わせ先が一目でわかるパンフレットを作成。鯖江市全域の小中学校に配布した。

### ③NPO 法人よりづかちよいスポ倶楽部（北海道）／2年目

- ・北海道内では、NPO 法人幕別札幌内スポーツクラブが当事業を先駆けて受託しており、平成24年度には当クラブにも、アスリートを派遣してもらったという経緯がある。
- ・本年度で2年目だが、市教育委員会の課長が異動となり、0から説明した。

- ・学校体育活動コーディネーターの熱意にふれ、学校教員からも「コーディネーターがいない日でも出来るように、効率のいいストレッチを教えてほしい」といった声があがるようになった。

④NPO 法人 SCC（鹿児島県）／※当事業受託は平成23年度～25年度受託で終了。

平成26年度は、拠点クラブとして新規項目の受託。

- ・鹿児島市では、平成25年度に「市スポーツ推進計画」を策定した。
- 計画内には「総合型地域スポーツクラブ」という単語も明記された。平成25年度には、当クラブと市内13クラブとの連携・協働を促進するための事業予算を、市が確保してくれた。
- ・あくまでも「協働」であり、拠点クラブの一方向的な押し付けになってはいけない。
- ・「企画や集客の方法が分からない…」という市内クラブに対し、SCC から陸上トップアスリートを派遣し、「かけっこ教室」を提案。市内3クラブが実施したところ、平均80名以上の参加があった。
- 特にニーズのあったクラブでは、参加費をとって自主事業化することが決まった。
- ・拠点クラブは、周辺のクラブにワクワクを届けることが大切。

【質疑応答】

Q1：学校体育活動コーディネーターの人材不足に悩んでいる。子ども達にとっても年の近い大学生に任せたいという思いがあるが、大学生は平日に授業もあり時間調整が大変。

A1（さばえ）：当クラブでは、基本的に大学4年生に依頼しているため、単位も取り終わっており、授業もほとんどない。毎週木曜日にメールで予定を送ってもらい、大学生が入れない場合は、クラブスタッフで対応している。

Q2：SCCの「かけっこ教室」について、各クラブどのように周知をしたのか？

A2（SCC）：教室のチラシはSCCが作成し、各クラブで小学校等にかけてもらった。SCCとして行ったのは、あくまで企画と講師派遣のみであり、会場手配や参加費の設定などは各クラブに任せた。（各クラブの収益となるように参加費も調整してもらった）

【その他】

当事業の変遷は、以下の通り。

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
予算額（単位：千円）	570,993	581,598	588,866	256,462
委託先団体数	50 団体	46 団体	61 団体	31 団体
好循環推進プロジェクトの実施	50 団体	46 団体	61 団体	24 団体
「拠点クラブ」を核としたエリアネットワーク構築に関する実践研究				7 団体

※平成23年度のみ、事業名が「スポーツコミュニティの形成促進事業」。

【写真】



○パネル展示

「拠点クラブ」を核としたエリアネットワーク構築に関する実践研究受託クラブから6クラブ  
「好循環推進プロジェクト」受託クラブから5クラブ



開会挨拶



事例発表



グループディスカッション

○当事業について

文部科学省 HP…[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/club/1319698.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/1319698.htm)

※事業内容や選定団体について、記載されています。